

新刊紹介

竹中正夫著（神学部教授）「真人の共同体」

—現代社会における教会の課題—（現代神学双書）発行所、東京、新教出版社、定価四五〇円、B 6 二六七頁

著者は神学部においてキリスト教倫理学と社会倫理学を担当。この書の「はしがき」において次のとおり述べている。「ここ数年のあいだ、私の主な関心は宣教百年を迎えた日本のプロテスタント教会が、これからの二世紀において、いかなる態度をもつて日本の社会にあつてその責任を果たすべきかという課題であつた。この問題は、その困難だけを指摘しているのでなく、どこからかその課題を解明し、日本の教会の進むべき道をお互いに検討する必要がある。この小さな書物が、そうした共同の会話を促進する一つの踏み台ともなれば幸いである。」

Lindley Williams Hubbell “Shakespeare and Classic Drama”（英文）林 秋石著

「シェクスピアと古典劇」発行所、東京、南雲堂、定価九八〇円、一六四頁

著者は文学部教授 Modern Poetry 担当、米国籍をもっていたが一九六〇年日本籍をとり、林 秋石と改名。氏がなによりも好むものは秋と木と石だといわれている。

“The Orient……has never been more cruel than the West……It would be more accurate to say that history of Europe is so filled with inhumanity because it followed Rome instead of Greece.” (p. 53)

クルト・ブラッシュ著「禪画」日本語版（ドイツ語版はすでに発行）発行所、東京二女社、定価一八〇〇円、B 6 写真一七六頁、本文二九〇頁、著者は京都に生れ、同志社中学に学び、一九二八年同志社商卒業。同氏の父はながいあいだ京大、三高にてドイツ講師。さきに国際文化振興会は、著者が一昨年いらい自力をもって日本の禪画を欧州各国に紹介し、文化交流に非常な尽力をされたことにたいし、感謝の集いを行った。「ブラッシュ氏はどのようにして禪を理解したらいいかを長い時間をかけて考えた

末、禅宗芸術として最も注目される禅僧の水墨画の研究という至難な仕事に取りかかったのである。彼はこのために歳月をかけて、实地に踏査し、自分の眼で見、できる限りの調査をつくしたが、まことに並々ならぬことだったのである」（古田紹欽氏）

村田椋重著「世界旬日記」私家本、非売品 一三三頁

校友会長の著者が、先年約百五十日のあいだに、南北米、欧州の大半を旅し、各地で約三〇〇句の俳句を記録。はじめ著者は「世界旬日記」を一冊にする心組みであったが、虚子のすすめにより文章も同時に入れ、俳句による日記を発表されるにいたつた。

「椋重君は」本職の方もさうであらうと思ふが、俳句の方であつても、よく事を見極はめなければ承知しない、といふ処がある。その為にくどいと思はれる迄畳みかけて同じ事柄を左から右から背後から飽く事もなく作る。……この飽くことを知らない執拗な性質がすべての事に成功を齎す所以であらうと思ふ。又、君の俳句が人を庄する力を持つてゐる所以であらうと思ふ。」（高浜虚子）